

< 栃木地域 >

■ 白旗八幡と旗掛桜

えいほう
永保三年（1083）六月、源義家が陸奥国へ下るとき、数千の兵をひきいてこの地にいたり、この八幡宮に詣でて武運
ちようきゆう
長久を祈ったという。

しょうせんいんけいだい しらはた
これが勝泉院境内の白旗八幡宮である。そのとき、白幡
はたかけ ゆらい
をかたわらの桜樹に掛けたというのが旗掛桜の由来である。いまは、桜の木は枯れてしまい、そこには記念碑が立っている。

しょうあん かねうりきちじ うしわか
また、承安四年（1174）金売吉次にともなわれて牛若
まる よしつね ふじ ひでひら
丸（源義経）が藤原秀衡をたよって陸奥国へ向かう途中、この社に詣でたともいう。